



刑は刑無きを期す

「無刑録」のメインテーマともいえる。わが国の刑法思想の根本原理。

― 芦東山記念館10月1日開館 ―

わが国の刑法思想の先駆者・芦東山(1696―1776)の資料を収集・保存・展示する「芦東山記念館」が10月1日(月)開館しました。先人の独立した記念館としては市内で初めての施設。10月31日(水)までは無料で一般公開されています。

東山の卓越した識見と思想を生かし、広めていくために

記念館は、大東町浪民字伊勢堂地内に、市が17、18年度に総事業費約3億2000万円を投じて建設しました。

一関市の母なる山、室根山を仰ぎ見る4888平方メートルの敷地に建てられた建物は鉄筋コンクリート平屋、床面積539.91平方メートルで外観は蔵をイメージ。内装には150年以上前に建てられた商家の古材をふんだんに活用し、常設展示室(171平方メートル)、企画展示室(64平方メートル)、ホール、研修室、収蔵庫などを備えています。記念館南側には緑の中で思いをはせることのできるボードウォークが設置されています。

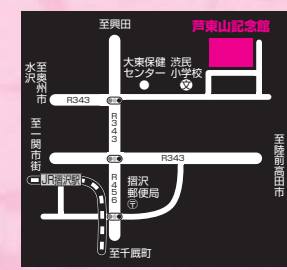
周辺には、芦東山の生家や墓地、終焉の地などゆかりの地が10カ所ほど点在し、室根山を眺めながら、気持ちのよい散策も楽しめます。

タッチパネル式のQ&Aコーナーを設けたホールからほの暗い常設展示室に入ると、幅約4メートルの扇状のスクリーンにガイドンス映像が音声とともに浮かび上がり、来館者を迎えます。床面には、東山が学んだ儒学の言葉「孝・悌・忠・義・礼・仁・智・信」が照らし出されています。

壁面の展示は、「学びの時代」「仙台・江戸仕官時代」「幽居時代」「浪民時代」「東山を慕う人々」など

記念館利用案内

- ◇開館時間…9:00～17:00(入館は16:30まで)
- ◇休館日…月曜日(祝日などの場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)
- ◇入館料…▶個人:小・中学生100円、高校生200円、一般:300円▶団体(20人以上):小・中学生80円、高校生160円、一般:240円
- ◇所在地・問い合わせ先…〒029-0521 一関市大東町浪民字伊勢堂71-17 ☎75-3861 FAX75-3862



郷土の生んだ偉大な先人、芦東山の信念と情熱の光を映し出す映像が来館者を迎える常設展示室



- ①「ディスプレイデザイン賞2007」で優秀賞に輝いた、美しくわかりやすい展示
- ②定期的に企画展を開催する企画展示室
- ③東山の生涯を紹介する精巧な模型
- ④芦東山木像 京仏師 佐久間漢雲(大東町浪民在住)作
- ⑤パソコンを使ったQ&Aコーナーも設けられたホール
- ⑥「原本無刑録」の上に掲げられた無刑録結語の一節
- ⑦開館式で、関係者の代表らによるテープカット

「芦東山」とは? ～芦東山のキホン～

Q:まず、生まれについて教えてください。
A:江戸時代中期の1696年、仙台藩磐井郡東山浪民村(今の一関市大東町浪民)に生まれました。生家は、祖父の代から肝入り職を勤めていました。

Q:何をした人ですか?
A:仙台藩の儒学者として5代藩主伊達吉村に仕えました。江戸に勉強に行った時、師匠の室鳩巢から刑律の書の編さんを頼まれ、24年間の幽閉生活中に、『無刑録』という本を完成させました。

Q:なぜ幽閉されたのですか?
A:藩が学問所を建てる時に、東山は「学生の席順は身分の高い順ではなく、年齢順にすること」などを意見しました。学問は身分に関わらず、皆平等に行うべきと考えたからです。しかしその考えが藩当局の反感を買ってしまった訳です。

Q:初めて名前を知った人も多いと思いますが。
A:芦東山の名前は、市内はもとより県内でもあまり知られていません。著作が、漢文体の難しい本で一般に普及しなかったなど、理由はいろいろあります。記念館では、東山の生涯と業績を映像やグラフィックを使って分かりやすく展示紹介しています。郷土の偉人の業績を知るために、ぜひおいでください。

ど時系列に沿った六つのテーマごとに直筆の書簡、模型、年表などを駆使して、東山の生涯や業績をたどることができます。

著書「無刑録」は原本(レプリカ)と元老院版が展示され、常に庶民や弱者の擁護を念頭に置く東山の、人間愛と儒学者としての信念に貫かれた人間像を浮き彫りにします。

これらの展示は、(株)日本ディスプレイデザイン協会主催のディスプレイデザイン賞(※)2007で、大賞に次ぐ優秀賞に輝きました(他の優秀賞受賞作品は、「新丸ビル環境デザイン」「ミキモト本店ウィンドウディスプレイ」など)。

芦文八郎館長は、「市町村合併以前からの悲願だった記念館が新一関市誕生後に完成し、うれ

関係者らテープカット

芦東山記念館開館式は9月30日、浪民小学校などを会場に開催されました。

式典では、「関係各位のご尽力に衷心より感謝申し上げます。記

※空間環境の優秀な作品を評価、公表し、ディスプレイ分野における新しい作家の発掘、デザイン活動の向上、領域拡大を目指し、さまざまな分野のディスプレイ作品を選奨し、表彰する総合コンテスト。今回で40回目。

記念館が広く活用され、東山の業績についての研究がより一層深められることを期待します」という市長の式辞に続き、芦館長が「資料保存と研究を推進しつつ、多くの人に親しまれ、活用される記念館を目指します」とあいさつ。記念館前に移動し、東山郷太鼓組の演奏に続いて、市長、教育委員長らによるテープカットを行い開館を祝いました。その後、東山郷福もちつき隊によるもちつき、来場者の内覧なども行われました。